





勢の活躍は目をみはるものがあり、中江氏を擁する同志社大学は、中江氏の攻守の活躍にのちに、秋期リーグ戦で優勝した。学生王座選手権では芝浦工業大学に1対3で惜敗した。関学では、榎本、津田両氏卒業後、バツクに服部氏の活躍がある。京大では、バツクスの重鎮であり新主将となつた石崎氏、それに関西ハンドボール球界きつての強シニエーター、彼がいなければ京大の現状維持は難しいといわれる程の浅野氏、今年入った井口氏、大阪府立大学では、名キーパーの辻本氏、ハーフバツクセンターの高田氏、そして土井氏、市大では白井氏、小林氏、大前大には倉橋氏、林氏、又、卒業して後に新しく高津クラブに入つた人、高校で途中退部した人を含むには、阪大三国氏、神戸大の高田氏、大前大の川崎氏、安岡氏等各校で活躍しておられる。特に中江、浅野両氏は京群クラブにも属しておられ、全日本総合選手権室内選手権等、各種の大会で気を吐かれた。又、今年度の関西学生ハンドボール連盟において中江氏が委員長、服部氏が副委員長の職をなせしめられた。今年には辻本(味の素)、中江(朝日新聞社)、高田(不二電機)、服部(五十嵐電機)等が卒業されるが、来年度も石崎、浅野、両氏等を中心とする高津勢は活躍するだろう。そのために、高津クラブも繁栄の道をたどるのである。

業されるが、来年度も石崎、浅野、両氏等を中心とする高津勢は活躍するだろう。そのために、高津クラブも繁栄の道をたどるのである。

1961.1.28. 3

(T・H記)

